

# 2022年度事業報告

2022年4月1日～2023年3月31日

2022年度の日本建築協会は、総会時の会員交流懇親会を3年ぶりに再開、大盛況の内に終えるなど、長きにわたるコロナ禍に対抗すべく、積極的な活動を試み、一定の成果を現れていることができた。理事会、各種委員会において、取地来場及びリモート参加方法を併用することが恒常化し、それぞれの議案について、必要な協議を遅滞なく進め、的確な結論を導き出した。

その好例として、「新入会員ガイダンス企画の催行」が挙げられる。発端は、第3回常任理事会（2022年7月27日開催）において、青年技術者交流の実効性をより高めるための具申案として出された意見である。そこから、入会～早期退会に至る状況を数値面から捉え直し、その傾向を軽減し得る方策として、協会活動の紹介と委員会への参画を促す「新入会員ガイダンス」を実施することになった。催行したのは2023年1月25日で、着手からわずか半年で実行へと結びつけたスピード感こそ、コロナ禍の状況に甘んじることなく培い体得した、継続して心掛けるべき姿勢と言えるだろう。当協会会員並びに役員・委員各位と事務局が丸となって取組み、今後、活動の一環として育成を進めていく事例である。

他にも、上記事例に先行して、当年度内に3回開催された「青年技術者交流会」、イケフェス2022期間中に実施した「スペシャルツアー 日本建築協会 Presents | 探訪 中之島中央部」など、感染防止対策下でのイベントの数々や、最優秀賞をはじめ、女性入選者が11名中9名を占める結果となった「工高生デザインコンクール」等のコンペでも、着実に当協会に新しい波が押し寄せていることを実感した。ある意味、コロナがもたらした一種の停滞期を経て、続けるべきこと・変えていくべきことの見極めについて考えさせられた一年であった。

また、「建築と社会」誌の運営は厳しい状況が続き、会員の減少も大きな課題として残っている。当年度、会員数は若干増加したものの、収支改善のための広告・作品作風掲載件数拡大が微増にとどまり、収入安定化には至らなかった。前述したような新企画の導入等、会員になる意義・特典を明確にし、不断に訴求する活動強化が必要な中、その方策を見出せず、活用し得なかったことが課題継続の要因であり、対策が急がれる。

2022年度収支決算は、会費収入が予算額、前年実績額をともに上回った。

また事業収支も会誌収支の大幅な収支改善や堅調に推移した契約約款の販売収入により事業収支全体の収支は昨年に比べ改善した。

一方管理費は、人件費をはじめいくつかの科目で予算額を上回り、管理費全体では予算額を上回った。結果、本部、支部を合わせ期末の正味財産額は、730千円の減となった。

## I 本 部

### ◎役員等々の開催状況

- 総会、理事会、評議員会、常任理事会、他  
定時総会 6月30日(木)
  - 2021年度事業報告・収支決算報告
  - 2022年度事業計画・収支予算
  - 役員改選
- 第1回 通常理事会 6月8日(水)
  - 2021年度事業報告・収支決算報告
  - 2022年度事業計画・収支予算
  - 役員改選
- 第2回 通常理事会 11月16日(水)
  - 2022年度上半期の事業執行状況
- 第1回 臨時理事会 6月30日(木)
  - 会長選定
  - 役付役員選任
  - 常任理事ならびに常設委員長の委嘱
  - 理事の会務分掌
- 定時評議員会 6月8日(水)
  - 議長互選
  - 役員候補者推薦
- 第1回 常任理事会 4月28日(木)
  - 2021年度事業報告(案)
  - 2022年度事業計画(案)
  - 2021年度収支決算見込と2022年度収支予算(案)
  - 2022年度役員(理事)、評議員の回答状況
  - 6月30日定時総会他の当日スケジュール
  - 情報見学小委員会「第1回青年技術者交流会」
  - U-35委員会「茨木市との協業による社会実験計画」
  - 編集企画委員会と協会活性化アクション
- 第2回 常任理事会 5月27日(金)
  - 2021年度事業報告(案)
  - 2021年度決算報告(案)

- 2022年度事業計画(案)
  - 2022年度収支予算(案)
  - 6/8評議員会・理事会の議題と6月30日総会他
  - 2022年度役員(理事)及び評議員の回答状況
  - U-35委員会「茨木市との協業による社会実験計画」
  - 編集企画委員会と協会活性化アクション
  - 第69回青年技術者選考結果
  - KENTEN2022セミナーと優良製品・技術表彰
  - 第1回大阪都市景観建築賞幹事会の報告
  - 第6回論考コンクールのテーマ
- 常任理事会 7月27日(水)
    - 「イケフェス大阪2022」
    - 編集企画委員会と協会活性化アクション  
一学生(Web)会員無料化についての整理
  - 2023年1月以降の役員会の日程
- 常任理事会 9月27日(水)
    - 第2回通常理事会及び支部長会議(11/16)の開催
    - 「2022イケフェス大阪」(10/30)連携事業
    - 編集企画委員会と協会活性化アクション  
・青年技術者へのガイダンス(オリエンテーション)  
・編集委員会からの報告
    - 「2022年建築関係団体合同忘年懇親会」
    - 「2023年1月以降の役員会」の日程
  - 常任理事会 10月26日(水)
    - 2022年度上半期事業執行状況
    - 2022年度上半期収支予算執行状況
    - 6月通常理事会・定時総会の日程
  - 常任理事会 1月25日(水)
    - 6月総会 講演会の講師
    - 「理想のすまいと建築フェア2023」
    - U-35委員会「茨木市役所前線導道に向けた社会実験」
    - 「建築と社会」2023年度年間テーマと各号の特集担当
    - 「片岡安賞」論考コンクール
    - 第1回新入会員ガイダンス
  - 常任理事会 2月22日(水)
    - 「理想のすまいと建築フェア2023」講師派遣
    - 2023年度の役員、評議員の推薦依頼
    - 6月総会の講師
  - 常任理事会 3月22日(水)
    - 2023年度役員(理事)、評議員の推薦状況
    - 6月定時総会、臨時理事会、講演会、表彰式、懇親会当日のスケジュール
  - 会長・副会長・常任理事・支部長会議  
11月16日(水)
    - 2022年度上半期の事業執行状況(案)
    - 意見交換
- 常設委員会  
協会の事業を円滑に遂行するため、5つの常設委員会を設置している。
    - 編集委員会  
会誌「建築と社会」の企画・編集のため、編集委員会を設置し、特集小委員会、作品作風小委員会の2つの小委員会が構成している。  
特集小委員会は計画系、建築計画系、インテリア・住宅系と構造分科会、設備分科会、施工材料分科会、法令分科会の5つの分科会に分かれている。編集委員会12回、特集小委員会を57回、作品作風小委員会を11回開催した。  
また、2021年及び2022年12月号特集で取り上げた様々なプロフェッショナルの土壌に迫るため、編集委員&会員参加型で、実際にプロフェッショナルの現場を訪れる企画の第一弾として、2023年3月9日にコイズミ照明株式会社催行による「R&Dセンター見学ツアー」に参加した。  
今年度は、分科会のあり方について議論を重ね、その活動内容を改めて見直し、名称についても検討した結果、2023年4月からは以下の通りに名称を変更し活動を行うこととなった。  
  
編集委員会 → 編集企画委員会  
作品作風小委員会 → ひと・まち・建築小委員会  
特集小委員会 → 計画分科会  
計画系分科会 → 計画分科会  
建築計画系分科会 → 建築デザイン分科会  
インテリア・住宅系分科会 → 空間デザイン分科会  
設備分科会 → 環境分科会  
ほか3分科会(構造/施工材料/法令)は、名称変更なし
- 近年、広告収入や作品作風への掲載数の減少により会誌収入が落ち込んでいく。会誌の活性化については編集委員会が改革に取り組む、作品掲載数の増加、協賛記事広告の掲載により、収支はやや改善している。
- 事業委員会  
見学会や講演会、研修会などを企画する情報見

- 学小委員会を7回開催し、見学会を2回実施した。  
青年技術者の交流を目的としたオンライン会議と会場でのリアルな交流を併用した第1回青年技術者交流会を5月27日(金)に開催し、その後9月30日(金)と3月3日(金)の計3回実施した。  
また、史料研究会と協力して2022年度「イケフェス大阪」に参画し「スペシャルツアー 日本建築協会 Presents | 探訪 中之島中央部」を10月30日(日)に実施した。  
都市景観建築賞幹事会と4団体で構成する建築関係団体合同忘年懇親会の実行委員会に参加した。合同忘年懇親会については、今年度も中止が確定した。
  - 出版委員会  
建築に関する図書の企画・編集・刊行を行うため、11回開催した。  
また、新しい筆者の発掘に当たり、多くの方へ訪問や交流を行い、発刊準備を進めた。  
セミナーの開催に関しては、コロナ禍の状況により見送ることとしたが、web開催可能な会場や必要設備の検討を行い、次年度への準備を継続的に行った。
  - 教育委員会  
建築工事実務講習会を開催する講習会小委員会、工高生のデザインコンクールを開くための工高生教育小委員会、「再読 関西の建築」を企画・編集するための史料研究会を運営している。  
講習会小委員会を2回開催し、建築工事実務講習会を実施した。  
工高生教育小委員会は3回開催した。  
また、史料研究会を5回開催し、過去に「建築と社会」誌に掲載した「再読 関西の近代建築」及び「再読 関西近代建築一論考・記事編」で扱えなかった建築や再発見が待たれる建築などを紹介する「再読 関西の建築」を連載している。  
引き続き大阪府や建築4団体で構成する「大阪府住まい・まちづくり普及協議会」に協力した。
  - 未来創生プロジェクト  
様々な活動を通じて、建築と社会の未来を探り、創り、育てるとともに人材の発掘・育成を目的に、「建築次世代委員会」、「2040委員会」、「U-35委員会」の3つの委員会が構成している。  
建築次世代委員会は、建築と社会を担う人材育成に資する活動を創造するため9回開催した。学生のための現場見学会を2回実施した。  
2040委員会とは、日本建築協会が100年にわたり築いてきた歴史の上に、「次世代(Next Generation)」の想いを集結させ、「次代(Next Era)」が創造的で魅力的なものとなるべく、これからの「建築と社会」のあるべき姿を思考(志向、試行)することを目的に12回開催し、その内の1回はオープン委員会として多様なメンバーによる意見交換の場を設けた。  
U-35委員会は、若手会員の増強と協会活動の活性化を目指して11回開催し、委員相互の勉強会としてトークパトンを1回実施した。茨木市が主催する社会実験への参画にあわせて、U-35世代の交流と一般市民の交流の場になる公開型イベント8th action「建築とみち」を開催した。
  - 特別委員会  
協会の顕彰事業を円滑に遂行するため、5つの特別委員会を設置している。
    - 青年技術者選考委員会  
設計・計画、構造、設備、施工など建築に関連する分野から満35歳以下の青年技術者を顕彰するため、選考委員会を5月16日(月)に開催した。
    - 工高生デザインコンクール審査委員会  
工高生デザインコンクールは、工高生の設計技能向上のため、1955年(昭和30年)創立以来毎年実施してきた。審査委員会を10月22日(土)、表彰式を11月19日(土)に開催した。
    - 「建築と社会」賞選考委員会  
「建築と社会」誌に掲載された作品、記事の中から社会性、環境などに配慮した建築作品や建築にかかわる論文や記事などを顕彰する。賞の在り方や選考委員会の構成、選考方法の見直しと実行委員会の設置を検討中である。
    - 「片岡安賞」日本建築協会論考コンクール審査委員会  
100周年記念事業のテーマである「新しい地平へ」を実現するため、論考の発表の場を提供する第6回「片岡安賞」コンクールの審査会を2回開催し、一次審査に当たった。
    - 「片岡安賞」日本建築協会論考コンクール実行委員会  
論考コンクールのテーマ案策定、審査委員選任、公開プレゼンテーションの運営などを行う独立した組織で、4回開催した。
- ◎事業の執行状況
- 「建築と社会」誌の発行  
「建築と社会」誌は、1917年(大正6年)の創立以来協会活動の中核として、会員相互あるいは会員と社会

を結び役割を果たしている。毎月発行し会員の手元に届けている。2023年3月号で通巻1212号を数える。

発行月	特 集 内 容
4月号	日本建築協会のこれまで いま これから
5月号	設備の変遷、最先端への道
6月号	第5回 片岡安賞 (日本建築協会論考コンクール) 募集テーマ: 変わらないもの・変わるもの
7月号	第69回 青年技術者
8月号	2030年の建築と社会
9月号	建築とDX
10月号	海と建築
11月号	青年技術者×青年技術者
12月号	建築とインテリアを創るプロフェッショナルの 土壌
1月号	万博・温故知新 ～2025年大阪・関西万博に向けて～
2月号	第29回 日本建築協会会員作品 「私の空間作法」
3月号	東海支部
特集 以外の 主な 内容	●作品作風 ●gallery ●法令コーナー ●構造・設備の頁 ●再読 関西の建築 ●メンバーズフォーラム ●インフォメーション

## 2. 講演会の開催

話題の建築物や構造物、都市問題など様々なジャンルを対象に、エピソードや苦労話、ノウハウなどを聞く講演会を毎年開催している。2022年度は5回開催した。

今年度より「青年技術者交流会」(年3回程度・不定期開催)、「新入会員ガイダンス」(年1回・次年度以降の開催時期検討中)を新設した。

開催: 5月27日(金)  
名称等: 第1回青年技術者交流会  
発表者: 片岡 政規、河西 孝平、寺村 雄機  
参加者: 10名  
開催: 6月30日(木)  
名称等: 定時総会記念講演  
「文化都市・大阪のレガシーその歴史を  
2025大阪・関西万博につなぐ」  
講師: 吉田 憲史  
国立民族学博物館長 学術博士

参加者: 70名  
開催: 9月30日(金)  
名称等: 第2回青年技術者交流会  
発表者: 川東 大我、田中 和八  
参加者: 18名  
開催: 1月25日(木)  
名称等: 第1回新入会員ガイダンス  
「協会活動説明」「各委員会活動紹介」  
発表者: 指田 会長・役員・委員  
参加者: 40名  
開催: 3月3日(金)  
名称等: 第3回青年技術者交流会  
発表者: 松島 将太、南澤 智規、村岡 幹尚  
参加者: 21名

## 3. 見学会の実施

著名建築物や近代建築などの見学会を毎年実施している。

(1) 建築次世代委員会主催  
開催: 6月22日(水)  
名称等: 第6回学生のための現場見学会  
新行政棟・文化庁移転施設整備工事  
参加者: 20名  
開催: 3月30日(金)  
名称等: 第7回学生のための現場見学会  
京都市立芸術大学移転整備工事(C地区)  
参加者: 21名

## (2) 情報見学小委員会主催

開催: 2月1日(水)  
名称等: 京都四條 南座  
参加者: 22名  
開催: 3月28日(水)  
名称等: 大阪国際中学校高等学校  
参加者: 26名

## 4. 建築工事実務講習会の開催

1957年(昭和32年)以降、毎年主として中堅以下の建築技術者を対象に標記講習会を実施している。2022年度は1月18日(水)に開催した。

開催: 1月18日(水)  
講習: ①施工計画 ②仮設見積  
講師: ①戸田建設株式会社 山東 圭司、  
清水建設株式会社 伊藤 維俊  
②株式会社大林組 吉田 克寿  
参加者: 29名

## 5. 顕彰事業の実施

### (1) 青年技術者の顕彰

1954年度(昭和29年度)から毎年実施している。2022年度は33名を顕彰した。

- 設計・計画 16名  
岩田友紀、瓜生宏輝、押谷崇之、小野美郷、寛 政憲、加藤大樹、北出悟士、小林靖志、杉木勇太、田中裕大、土田昌平、花原裕美子、松島将太、三田村聡、南澤智規、村岡幹尚
  - 構造 4名  
高山一斗、八田有輝、服部賢也、山本佳明
  - 設備 8名  
池田昌平、伊藤光太郎、田村友哉、豊村幸毅、西谷太一、服部将光、藤原優也、吉村和也
  - 施工 5名  
新井翔太、熊倉 遼、谷口博和、宮田明子、山下博之
- (2) 「建築と社会」賞の顕彰  
賞の在り方や選考委員会の構成、選考方法の見直しを検討している。
- (3) 優秀卒業生の表彰  
優秀な建築系学科の卒業生を表彰することにより、研鑽意欲の向上を促し、激励するため1952年(昭和27年)から実施している。2022年度は工業高校や専門学校など26校50名を表彰した。

## 6. コンクールの実施

- (1) 工高生デザインコンクールの実施  
2022年度で68回を数える。上半期は「私のまちな」の「学び」ステーション」を設計課題に募集を行い、21校94点の応募があった。10月22日(土)に審査会を開催し11月19日(土)に表彰式を行った。
- (2) 第6回「片岡安賞」日本建築協会論考コンクールの実施  
「片岡安賞」日本建築協会論考コンクールは、創立100周年を迎えたのを機に、本会の歴史を見つめ直し、「建築と社会」誌がさらに優れた論考の受け皿となり、建築界全体にとって有益な媒体となることを目的に立ち上げた。「ジェンダー平等」が変える建築の未来像」をテーマに募集を行い、審査の結果、受賞該当はなしとなった。

## 7. 出版物の刊行

時代のニーズに即した新しい著書の発掘を第一とし、建築に関する図書の企画・編集・刊行を行っており、1949年(昭和24年)以来多くの図書を出版してきた。「建築技術選書」と「プロのノウハウ」シリーズはその代表である。

8月には「図解 住まいの設備設計」の中国語翻訳版が刊行された。

## 8. 「建築と社会」誌のアーカイブの閲覧

協会のホームページの会員専用ページから「建築と社会」誌の創刊号からのバックナンバーを無料で自由に閲覧できるシステムである。最新号をダウンロードできる運用が好評である。

## 9. 建築関係団体等との交流、連携

- (1) 在阪建築4団体との連携  
建築関係をはじめとする各団体と交流・連携事業を行う。特に、2009年度から進めてきた、関西建築4団体(大阪府建築士会、大阪府建築士事務所協会、日本建築家協会近畿支部、日本建築協会)会長・支部長意見交換会での連携活動を引続き推進した。
- 4団体で策定した提言書の実現に向けて4会協力して行うとともに、当協会でもその一翼を担う事業を協会活動の中で引続き検討を行っている。
- 在阪建築4団体インターンシップはコロナ禍により今年度は昨年度に引続き中止した。

## (2) イケフェス大阪等との連携

「イケフェス大阪」など建築関係団体以外の団体との連携事業も引続き取組んだ。10月29日(土)・30日(日)に開催されたイケフェス大阪とは、10月30日にスペシャルツアー「日本建築協会 Presents! 探訪 中之島中央部」を実施し、公式ガイドブックを販売するなど連携を強めた。

## 10. 共催、後援、協賛、協力事業

協会の事業主旨に合致する事業に共催、後援、協賛、協力した。

### (1) 共催

応募: 7月1日～31日  
表彰式: 1月26日  
名称等: 第41回大阪都市景観建築賞  
(大阪まちなみ賞)  
主催者: 大阪府、大阪市、(公社)大阪府建築士会、(一社)大阪府建築士事務所協会、(公社)日本建築家協会近畿支部大阪地域会、(一社)日本建築協会

### (2) 後援

開催: 6月3日  
名称等: 「暑中コン工事対策マニュアル2022」改訂報告会  
主催者: (一社)日本建築学会近畿支部  
開催: 6月17日  
名称等: 講習会 2022年 建築紛争における法的措置とその対応策  
主催者: (公社)大阪府建築士会  
開催: 6月27日  
名称等: 講習会 デジタル化社会におけるスマートシティ戦略と最新まちづくりの動向  
主催者: (公社)大阪府建築士会

### 開催: 7月1日

名称等: 創立70周年記念シンポジウム  
「在宅福祉とウォーターフロントの革新」  
主催者: (公社)大阪府建築士会  
開催: 9月14日  
名称等: 講習会「基礎からの防火材料-材料・工法で建築と人命を火災から守るために-」

主催者: (一社)日本建築学会防火委員会  
開催: 9月30日  
名称等: 大阪芸術大学アートサイエンス学科棟見学会

主催者: (公社)大阪府建築士会  
開催: 10月21日  
名称等: 武庫川女子大学 甲子園会館 見学会

主催者: (公社)大阪府建築士会  
開催: 11月14日～27日  
名称等: WEB講習会 最近の法令改正の動き

主催者: (公社)大阪府建築士会  
開催: 11月19日・20日  
名称等: F.L.ライト設計旧山邑邸の世界遺産的価値を考える国際シンポジウム

主催者: 旧山邑邸世界遺産登録推進実行委員会  
開催: 11月21日  
名称等: 第60回関西建設ゴルフ大会

主催者: 株式会社建設通信新聞社関西支社  
開催: 11月25日  
名称等: 講習会 脱炭素社会に向けてSDGsの取り組みと実践

主催者: (公社)大阪府建築士会  
開催: 12月9日  
名称等: 講習会「住宅・中低層建築物における地盤リスクと対策」

主催者: (公社)大阪府建築士会  
開催: 12月17日・18日  
名称等: なにわ建築フェスタ2022児童画展

主催者: (一社)大阪府建築士事務所協会  
開催: 承認日-12月31日  
名称等: 大阪府建築士事務所協会賞2022

主催者: (一社)大阪府建築士事務所協会  
開催: 2月8日  
名称等: 講習会「緩ませない」「脱着・破断させない」ボルト設計と留意点

主催者: (公社)大阪府建築士会  
開催: 2月10日  
名称等: 開設者・管理栄養士のための建築士事務所の管理研修会

主催者: (一社)大阪府建築士事務所協会  
開催: 2月16日  
名称等: 講習会「鉄とステンレス 新素材の活用講座」見学会 枚方市総合芸術文化センター

主催者: (公社)大阪府建築士会  
開催: 2月21日  
名称等: 工事見学会+説明会  
茨木市文化子育て複合施設「おにクル」

主催者: (公社)大阪府建築士会  
開催: 2月22日～3月11日  
名称等: 修成建設専門学校 卒業展2023

主催者: 学校法人修成学園 修成建設専門学校  
開催: 3月14日  
名称等: 見学会+説明会 資生堂大阪茨木工場  
西日本物流センター

主催者: (公社)大阪府建築士会  
開催: 3月19日  
名称等: JIA市民大学 まちづくりセミナー

主催者: (公社)日本建築家協会近畿支部  
(一社)日本建築学会  
開催: 3月22日  
名称等: 講習会 BIM設備設計利用とフロントローディング

主催者: (公社)大阪府建築士会  
開催: 3月25日  
名称等: まちあるきプロジェクト  
「ぶらり大阪“景観”ウォーク生野区編」

主催者: (一社)大阪府建築士事務所協会  
開催: 3月31日  
名称等: 講習会 BIMによる「新しい」設計法

主催者: (公社)大阪府建築士会  
開催: 10月26日～28日  
名称等: Japan Home & Building Show 2022

主催者: (一社)日本能率協会  
開催: 10月29日・30日  
名称等: 生きた建築ミュージアムフェスティバル  
大阪(イケフェス大阪)2022

主催者: 生きた建築ミュージアム大阪実行委員会  
開催: 2月～3月 作品展示・表彰式等  
名称等: 令和4年度(第32回)「あすなろ夢建築」大阪府公共建築設計コンクール

主催者: 大阪府、(公社)大阪府建築士会、大阪府住宅供給公社  
開催: 2月28日～3月3日  
名称等: 建築・建材展2023(第29回)

主催者: (公社)大阪府建築士会、(株)日本経済新聞社



- ④2021年度決算・2022年度予算報告
- 第2回常議員会 5月31日(火)
  - ①新支部長選出
- 第3回常議員会 9月1日(木)
  - ①2022年度第1回セミナーの会報誌への寄稿
  - ②今後の活動計画
  - ③2022年度セミナーの企画
- 第4回常議員会 11月4日(金)
  - ①2022年度第2回セミナーの企画
  - ②今後の活動計画
- 第5回常議員会 12月15日(木)
  - ①2022年度第2回セミナーの報告
  - ②2022年度第3回セミナーの企画
  - ③近現代建造物調査
- 第6回常議員会 1月26日(木)
  - ①2022年度第3回セミナーの企画
  - ②2023年度事業計画・予算、2022年度決算
  - ③近現代建造物調査

- 第7回常議員会 3月16日(木)
  - ①2022年度第3回セミナーの実施
  - ②2023年度事業
  - ③近現代建造物調査

◎事業の執行状況

1. 講演会、見学会、勉強会の実施
  - 開催：5月21日(土)
  - 講演：『古都の占領』をふりかえる  
—侵略の歴史が書き換えられる進行中の  
現代史の中—
  - 講師：西川 祐子、河角 直美
  - 参加者：4名
  - 開催：12月8日(木)
  - 講演：『多様な茶室像から  
建築の「和風」をさぐる』
  - 講師：矢ヶ崎 善太郎
  - 参加者：17名

- 開催：3月20日(月)
- 講演：『海外の日本庭園について寸見』
- 講師：山田 拓広
- 参加者：13名

2. 2級建築士受験講習会の開催

- 京都府建築士会共催「製図(基本・応用)」
- 開催：7月16日(土)～9月4日(日)
- 講師：加藤正浩/KATO建築研究所  
京都府建築士会事業委員会委員
- 受講者：8名
- 内容等：①製図(基本)2日間  
②製図(応用)延べ6日間

3. 工事請負契約約款事業

- 「民間(七会)連合協定工事請負契約約款契約書関係書式」、「民間(七会)連合協定小規模建築物・設計施工一括用工事請負契約書類(書式・約款)」、「民間(七会)連合協定リフォーム工事請負契約書類(書式・約款)」の販売を行った。